

出エジプト記1章8－12節 「苦めると、かえって進む御業」

1A 主に反対する勢力

- 1B 契約の実行
- 2B 神を認めぬ王
- 3B 悪魔の支配する世

2A いのちの法則

- 1B 苦しみの中での増え広がり
 - 1C 「生めよ、増えよ」
 - 2C 主のおきて
- 2B 復活のいのち
 - 1C 罪と死の原理
 - 2C 抗う、いのちの御靈

3A 打ち勝つ者

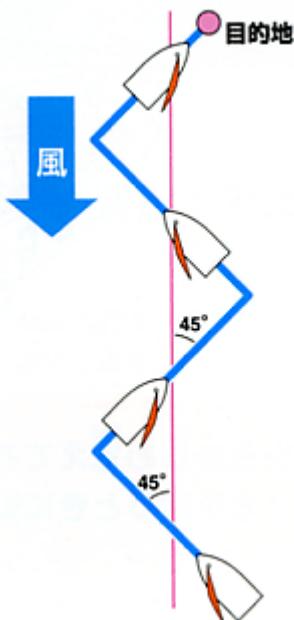
- 1B 神のご計画
- 2B 悪を善にされる方
- 3B 圧倒的な勝利者

本文

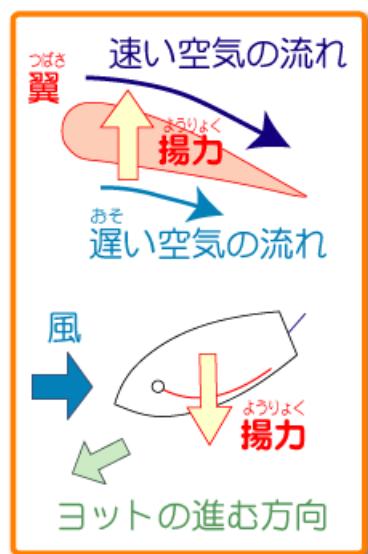
出エジプト記 1 章を開いてください。私たちの学びは、今日から出エジプト記に入ります。午後礼拝で、1-2 章を一節ずつ見ていきますが、今朝は 1 章 8-12 節に注目します。^⑧ やがて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。^⑨ 彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民はわれわれよりも多く、また強い。^⑩ さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くことがないように。」^⑪ そこで、彼らを重い労役で苦しめようと、彼らの上に役務の監督を任命した。また、ファラオのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。^⑫ しかし、苦しめれば苦しめるほど、この民はますます増え広がったので、人々はイスラエルの子らに恐怖を抱くようになった。」

私たちは創世記では、ヨセフにすべてを任せ、ヤコブの家によくしたファラオの姿を見ました。そのファラオとは違う、ヨセフのことを知らないファラオが出てきました。以前のファラオとは違い、打って変わって、イスラエルの民を苦しめ始めました。それは、彼らが多くの子を生んで、増え広がり、強くなっていたからです。彼らがいなくなったら、重要な労働資源がなくなると思ったのです。それで、厳しく労役を課していました。ところがどっこい、苦しめれば苦しめるほど、ますますイスラエルの民は増え広がっていました。

今朝は、この「苦しめれば、それだけ増え広がる」という、神のみわざについてじっくりと見ていきたいと思います。エジプトの王が考えたように、苦しめればそれだけ彼らの力は弱くなると思うでしょう。ところが、そうならずかえって強くなったのです。神の民については、キリスト者も世界の宣教の現場で、数多くの証しがあります。隣国の中では、共産党政権による弾圧によって、かえって家の教会が増え広がったと言われています。中東ではイランが、その典型です。1979年イスラム革命以後に、かえってキリスト者が急増しました。何よりも、使徒の働きにある初めの教会は、迫害とともに、福音が広がっていく証しが貴かれています。



すでに自然の法則の中にも、かえって抗う法則があります。ヨットがそれですね。ヨットは、風上に向かって進みます。向かい風なっていますから、後退することはあっても、前進するはずがないと思いますよね。けれども、確実に前進します。なぜか？自然の中に、「揚力」があります。飛行機の翼も、それで重力の法則に抗って、あの巨大な機体が空中に浮かびます。ヨットの帆も、飛行機の翼も、一方が他方よりもカーブになっていて、そこの部分の空気の流れが速くなり、相対的に空気が少くなります。それで空気が少なくなった方に動きます。それが揚力です。それで、後退すると思っても、かえって前進するのです。



1A 主に反対する勢力

1B 契約の実行

本文に戻ります。イスラエルの民は、アブラハムに対する神の契約のとおり、エジプトに下っても、ヤコブがまだ生きている間も、多くの子を生み、数を増やしていました(創世 47:27)。そして、ヨセフが死んだ後も、なおのこと増えて行って、強くなっていることを、出エジプト記の冒頭が述べています。「1:7 イスラエルの子らは多くの子を生んで、群れ広がり、増えて非常に強くなった。こうしてその地は彼らで満ちた。」

2B 神を認めぬ王

そのことを認めて、イスラエルには神がおられると認めたのは、ヨセフが生きていた時のファラオでした。彼は、ヨセフが自分の夢を解き明かした時、「創世 41:38 神の靈が宿っているこのような人が、ほかに見つかるだろうか。」事実、神がそうされているのですから、それを認め、その働きを

祝福すればよいのです。そして、ヨセフとヤコブの家を祝福したから、エジプト全体も祝福されました。ところが、出エジプト記1章のファラオは、神がそれをしていることを認めません。愚かにも、たゞイスラエルが強くなっていることだけを見ています。それで、その動きに反対するのです。

3B 悪魔の支配する世

これが、出エジプト記の始まりです。主は、創世記において、ご自分が神であり、生きておられる方であることを、族長たちの信仰の歩みによって、明らかにされました。確かに、アブラハム、イサク、ヤコブに神がともにおられることが、証しされています。ところが、出エジプト記では、神が全く同じように、イスラエルの民に働きかけているのに、それに反対して、自分の支配に抑えつけようとしています。

それが、もっとも壮大な神の歴史を指し示しているのです。それは、アブラハムをさかのぼって、アダムが罪を犯してからの世界です。蛇が惑わし、それでアダムが罪を犯したのですが、それから、この世が悪魔の支配下に入っているのです。人は、悪魔の偽りの中で生き、自分が罪と欲の中に生きていることさえ、気づいていません。「I ヨハ 5:19 私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。」神が世界を支配し、その支配を人に任せました。ところが人が、悪魔にその支配権を譲ってしまいました。そのため、悪魔が世を支配しています。そして、その中に人々が生きていて、それで罪とその結果に苦しんでいるのです。

2A いのちの法則

1B 苦しみの中での増え広がり

しかし、イスラエルの民は、ファラオによって課せられた過酷な労役の中で、いかにして、子をたくさん産んでいったのでしょうか？

1C 「生めよ、増えよ」

当時がどうであったか、あまり分かりませんが、ユダヤ人の歴史や今のイスラエルを見ると、そのことが何となくわかります。ユダヤ人は、ホロコーストによって六百万人が殺されました。しかし、戦後直後から、そのトラウマをかかえ、貧しい状況であるにもかかわらず、難民のように暮らしていく中で、そこで結婚式を執り行い、そして子供を産むのです。家族が次々と作られて行きます。DNAのように、家族になることが至上命題のようになっています。

そして、日本では少子化の問題が起こって久しいですが、イスラエルでは全くなく、どんどん人口が増えています。しかも、イスラエルは先進国で、先端技術が発達しています。大抵、先進国は少子化の傾向がありますが、イスラエルは真逆です。ハイテクの会社のCEOでも、会議中に家族からの電話があると、そちらを優先すると言う話も聞いたぐらいです。

むしろ、ユダヤ人の権利が、市民権として完全に守られているアメリカのほうで、アメリカの生活が快適ですが、ユダヤ系の人口は増えていない、いや減少傾向にあります。自分をユダヤ人というよりも、アメリカ人とみなしていきます。個人が家族より大事な人々が多くいます。かつては、イスラエルの全人口よりも、ニューヨークのブルックリンのユダヤ人の方が多いと言われていました。けれども 2010 年から、アメリカのユダヤ系よりイスラエルのユダヤ人口のほうが増えました。¹

これは何か？ 苦しみの中でかえって、家族の大切さが身にしみてくるのではないでしょうか？ 問題がない時は、家族のそれぞれのメンバーが自分の事を追求できますが、危機の時に互いがとても大切であること確認できるのだと思います。「箴 17:17 友はどんなときにも愛するもの。兄弟は苦難を分け合うために生まれる。」思えば、23 年 10 月 7 日のハマスの大虐殺で、イスラエルも防衛戦争を始めました。戦争が起これば、国外に逃げる人が増えると思います。けれども、イスラエルは逆でした。世界中にいるイスラエル人が次々と、帰国していました。それは、イスラエルの人たち全体が、他人でも決して他人と考えられない、兄弟、家族のように考えているからです。

聖書では、なぜ、アブラハムに対して、子孫が星の数のように、海の砂のように増えると約束されたのか？ それは、神の祝福を地上で証しするためです。神はもともと、人に対して、「生めよ、増えよ、地に満ちよ」と祝福の命令を出していました。それを具現化するために、アブラハムを召し、彼から大きな国民を造ると約束されたのです。

2C 主のおきて

つまり、苦しみの時には、神のことばにより頼むことがあります、多くなると言えるのではないでしょうか。「詩 119:71 苦しみにあったことは私にとって幸せでした。それにより私はあなたのおきてを学びました。」自分がより頼むものが、どんどん取り除かれて行きます。しかし、神はおられます。そして、神のことばがあります。この方に拠り頼むことが、事がうまく行っているときよりも、しゃくなるのだと思います。

ペテロも、迫害の中にある信者たちに対して、第一の手紙でこう言っています。「 I ペテ 1:6-7 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならないのですが、7 試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と讃れをもたらします。」試練があると、それだけ信仰から離れると言うことが起こるかもしれません。けれども、それは間違っています。もともと、どこに信仰を置いていたのか？ が問われます。イエスと、そのことばに信仰を置いている人は、その信仰が純化されます。

教会というのは、単に数が増えればよいということではありません。主が求めておられるのは、

¹ <https://tinyurl.com/24yo7cqp>

ご自分と心を一つにしている者たちがいることであり、その心を一つにしている者たちによって、ご自身の御力を現わします。「Ⅱ歴代 16:9 【主】はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心がご自分と全く一つになっている人々に御力を現してくださいます。」そうやって、たとえ苦しみや試練がやってきても、その少ない数の中でみこころを求める群れには、主がご自分の力を現わしてくださいます。

2B 復活のいのち

主は、いのちを与える方です。いのちの神です。いのちは、神にあります。しかし、アダムが罪を犯した時から、死が世界に入りました。そこで神は、ご自身を復活の神として表します。死がいのちに打ち勝たないことを、お示しになるのです。

1C 罪と死の原理

使徒パウロが、ロマ書でこう言いました。「8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御靈の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです。」ここで律法と訳されているのは、法則とか原理とも訳すことができます。共同訳はこうなっています。「キリスト・イエスにある命の靈の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。」

神は、死そのものを打ち消しません。少なくとも今、それを行いません。黙示録 21 章には、天のエルサレムにおいて、死がないとあります。けれども、神は初めから、罪と死の原理を許容しながらも、それに打ち勝つ原理をもって、ご自身のいのちを示しました。それが復活です。イエスが、十字架の死を免れませんでした。ペテロが、そんなことがあってはいけない！と言ったら、イエスは、「退け、サタン！」と言われました。ご自分が死ぬのは、父のみこころだったからです。しかし、死んで、完全に死んで、三日目によみがえるということで、打ち勝っています。

2C 抗う、いのちの御靈

このように、復活のいのちをもって、今も神の御靈が働いておられます。ちょうど、ヨットが風上に動き、その向かい風を利用して、かえって揚力によって前に進むように、主は、罪から来る苦しみに対しても、ご自分のいのちを明らかにされます。

パウロは、自分たちの宣教が、イエスの死を身に帯びていて、それゆえ、イエスのいのちが現れていったと言っています。「Ⅱコリ 4:8-11 私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。9 迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。10 私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。11 私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。」困難な中にあって、けれども、いや困難な中にいたからこそ、イエスの

復活のいのちを証しすることができた、と言っています。私たちは、困難は嫌ですね。でも、その時に主が力強くお働きになる良い機会なのです。

3A 打ち勝つ者

1B 神のご計画

そして私たちはヨセフの生涯を見てきました。そこで見えた真理は、「悪をも善のために用いる、神のご計画」です。「創 50:20 あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のように、多くの人が生かされるためだったのです。」

2B 悪を善にされる方

ファラオは、イスラエルを迫害する手を緩めず、モーセとアロンのことばには、強情を張りました。しかし、拒む毎に、神の大きな力、偉大な力が現されます。そして主は、ファラオの心をかたくなにした、とまで言われます。圧倒的な主権と力で、主は、ファラオのかたくなさを用いられて、ますます、ご自分の栄光をお見せになるのです。

主は、すぐには悪を滅ぼされません。終わりの日に滅ぼされますが、すぐにではありません。しかし、その悪を神は完全に掌握されていて、ご自分の目的のために用いられるのです。

3B 圧倒的な勝利者

そういったことで、パウロは、キリスト者を圧倒的な勝利者と言いました。「ロマ 8:35-37 だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。36 こう書かれています。「あなたのために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊と見なされています。」37 しかし、これらすべてにおいても、私たちを愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。」大事なのは、これらすべてにおいても、あります。これらのことごとが自分に起こらないことが勝利ではなく、それらの中にあっても、神の愛から切り離されていないというのが、大勝利なのです。

苦しみや問題から避けられるのが、勝利だったら、それって弱い勝利ですよね。何か、悪いことが起こらないようにということを恐れながら生きなければいけません。しかし、どんな悪いことが起こっても、そこに主が圧倒的な主権で、良いことを行われる、主は愛しておられると知れば、「どんなことでも、来い！」ではないですが、すべてを受けとめて、なおのこと打ち勝つことができます。

それで、キリスト者は勝利を得る者と呼ばれます。黙示録の七つの教会、すべてに対して「勝利を得る者」に対する約束があります。そして、ヨハネは第一の手紙で、「5:4 神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。」そう、このように悪をも善のために相勵かせる方、イエスを信じていることが、世に打ち勝つ勝利なのです。